

# 小学校体育科の学習指導におけるメンター制の在り方についての一考察

## -研修資料を用いた情報交換の実践を通して-

篠原 健真 (鳴門教育大学大学院)

### 1. 目的及び研究内容

徳島県では、先輩教員をメンター、後輩教員をメンティとし教職に関する知識や指導技術の継承を目指した徳島型メンター制度の実施が始まった。本実践では、研修内容を教科指導に特化し、小学校体育科の学習指導におけるメンター制の在り方について検討する。

### 2. メンター制研修の計画

- 1) 教職経験年数8年以下の小学校教員を対象
- 2) 2021年6月～12月の期間で月2回程度
- 3) メンターが作成した研修資料をメンティが読み、感想と質問をWeb上のフォーム入力。メンターが個別に文書で返答する。

### 3. 研修テーマ一覧

- 1) 水泳指導について①
- 2) 水泳指導について②
- 3) オリンピック・パラリンピックについて
- 4) 保健について
- 5) 評価について
- 6) 見方・考え方
- 7) 体力の向上について
- 8) 発育発達と運動学習
- 9) 体育の授業を考える

### 4. 研修資料と返答の内容(一部抜粋)

- 1) 研修資料2「水泳指導②」について  
「水泳指導①」の続編として「もぐる・浮く運動に重要な浮力」と「進むための推進力と抵抗」について取り扱った。体育専門のバイオメカニクスの知識と水泳運動系の内容を関連させ、呼吸をうまく利用することが自身の浮力をコントロールすることにつながることや、安定した水平浮き身姿勢をとるためのメカニズム、水中で進むための力を生み出す動作と進むことによって生じる抵抗をで

きるだけ受けない姿勢をとることを技能のポイントとして説明した。

### 2) 研修資料2に対するメンティの質問・感想

人が肺に空気をためて浮力をコントロールできると初めて知った。考えたことがなかったの面白いと思った。泳ぐときの姿勢を「何となく」指導してしまっていた。浮くことが十分でない状態の子に泳ぐ練習をさせるのではなく、頭の位置に気をつけて浮く練習をしっかりと指導していきたい。進むことについては、バタ足だけでも進むスピードが全然違っていたので、姿勢が大切なのだよく分かった。

### 3) メンターの返答内容(概要)について

メンティの先生が、バイオメカニクスの視点で授業中の子どもの姿を思い浮かべていることがわかったため、運動の出来栄を評価するときに、人間の身体や水を物理的な視点でとらえ、さらに運動もその視点で捉えるバイオメカニクスの考え方について伝え、運動全般も同様の視点でみることを促した。

### 5. 結論

今回の実践を通して、メンティと情報交換をすることができた。研修内容の選定や、研修時間の確保には課題が残った。体育専門の理論と運動領域の関係について研究を継続する必要がある。小学校高学年の教科担任制に伴い、校内や中学校区の教員でチームをつくってリーダーを中心に教科の専門性を高める研修を行うなどの方策が期待される。

### 6. 主な参考文献

- 1) 徳島県教育委員会学校教育課(2019)。「徳島型メンター制度実施マニュアル」について。  
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kyoiku/gakkokyoiku/5026223>, (参照日2021年4月11日)。